

## イチゴ「滋賀SB2号」の育苗増殖率は約17倍、定植適期は9月10～24日頃である

**【要約】** イチゴ品種「滋賀SB2号」は親株1株から17株程度採苗できる。花芽分化期は9月10～14日頃であり、花芽分化が開始する9月10日頃から安定する9月24日頃に定植すると、1株当たりの可販収量は500～700g程度確保できる。

農業技術振興センター・栽培研究部・野菜係

**【実施期間】** 令和元年度～令和2年度

**【部会】** 農産

**【分野】** 競争力の強化

**【予算区分】** 県単

**【成果分類】** 指導

### 【背景・ねらい】

令和3年10月に滋賀県の栽培方式で育成したイチゴ品種「滋賀SB2号」の品種登録を出願した。今後県内へ普及するために「滋賀SB2号」の特性を把握し、品質と収量を保つための適正な管理が必要である。今回は育苗の増殖率および定植適期についての特性を明らかにする。

### 【成果の内容・特徴】

- ① イチゴ品種「滋賀SB2号」は安定して親株1株から17株前後採苗できる。これは「章姫」と同等であり、「かおり野」と同等かより多い（図1）。
- ② イチゴ品種「滋賀SB2号」の花芽分化した株の割合が50%を超える花芽分化期は9月10～14日頃である（図2）。
- ③ イチゴ品種「滋賀SB2号」は花芽分化期の9月10日頃から75%以上の株が花芽分化する9月24日頃に定植すると一株当たりの収量500～700gを確保できる（図2、3）。

### 【成果の活用面・留意点】

- ① 親株を6月に遮光したハウス内に定植し、底面給水方式によりポットで8月中旬までに苗受けし、苗には置肥せず苗の切り離しを定植前日に行う育苗方式における結果である。
- ② 予備を見込んだ育苗計画では親株1株あたりの採苗数15株として計算するとよい。
- ③ 定植後の養液管理は少量土壌培地耕での「かおり野」栽培に準じた方法、すなわちOK-F-1を用いて定植直後からEC 0.4dS/m、頂果房出蕾期からEC 0.8dS/m、3月からEC 0.5dS/mとして栽培した結果である。
- ④ 花芽分化期はその年の天候や育苗ハウスの条件等により左右されるため、定植時期を決めるにあたってはその都度花芽分化率を確認するのが望ましい。

[具体的データ]

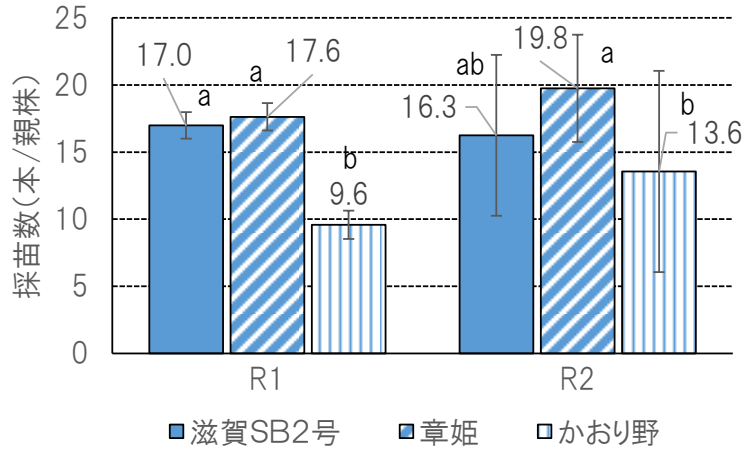


図1 親株1株当たりの採苗数の品種間比較

※エラーバーは標準誤差。Tukeyの多重比較検定により同一年度の異なる符号間に5%レベルの有意差があることを示す。R1は16個体(SB2と章姫)または12個体(かおり野)について親株個体を区別して採苗数を計数し算出。R2は親株4株を植え付けたプランター2個をひとまとまりにしたものを1つの反復とし、これを2反復(1反復あたり2プランターで計4プランター)設置した上で、プランター(親株4株)ごとに採苗数を計数した。

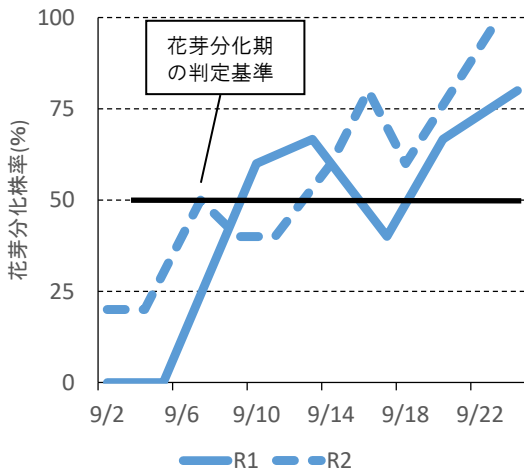


図2 年度ごとの花芽分化株率

R1 3~5日ごとに3~5株を調査  
 R2 2~5日ごとに10~11株を調査  
 ※ 頂花房の花芽発達段階が肥厚期に達した個体を「花芽分化した個体」として計数した。

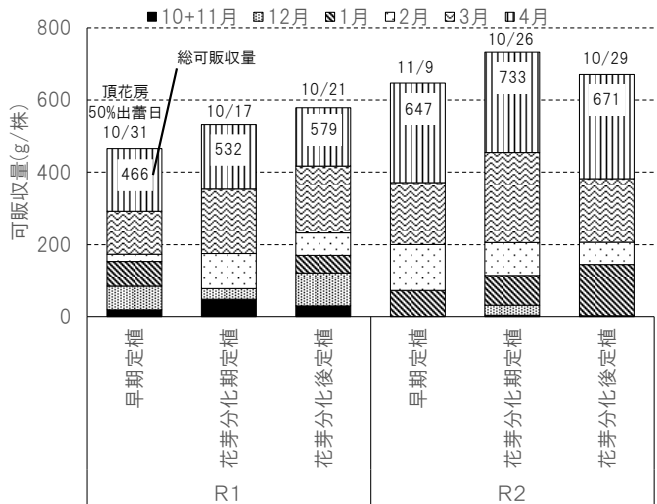


図3 「滋賀SB2号」における定植時期が収量に及ぼす影響

R1 定植日: 早期 8/26, 花芽分化期 9/11, 花芽分化後 9/24  
 1区 15株、収穫調査 11/5~4/30  
 R2 定植日: 早期 8/27, 花芽分化期 9/10, 花芽分化後 9/24  
 1区 20株、収穫調査 11/24~4/30  
 ※ 早期定植区は定植後から花芽分化期までは水のみで管理

[その他]

・研究課題名

大課題名: 経済活動としての農業・水産業の競争力を高める研究  
 中課題名: 需要の変化への対応と農地・農業技術等のフル活用  
 小課題名: イチゴの新品種育成と栽培技術の確立

・研究担当者名: 近藤由紀子 (R1~R2)、軸屋 恵 (R1~R2)、那須大城 (R1~R2)

・その他特記事項: イチゴ栽培マニュアルに活用